

1. 実況上の着目点

- ① 大型で非常に強い台風第9号が沖縄の南を北西進。南西諸島や西・東日本太平洋側には台風周辺からのうねりが到達し、沖縄地方では、大しけとなっている。
- ② 500hPa 5820～5880mの正渦度帯に対応して水蒸気の流れが、黄海、日本海を通過して到達している北海道地方では、強い雨が断続。
- ③ 上層の高気圧の中心が日本の南～小笠原近海にあり、西日本～東北地方は500hPa負渦度・沈降場内で対流雲の発達を抑えられている。地上では、日本のはるか東に中心をもつ高気圧に覆われている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風第9号は、非常に強い勢力を保ったまま、11日午前中に先島諸島に最接近。沖縄地方では台風が接近する10日午後から暴風、11日にかけて猛烈な風が吹いて猛烈なしけとなり、台風周辺の発達した対流雲がかかり雷を伴い非常に激しい雨や猛烈な雨が降り大雨となる所がある。沖縄地方では11日にかけて、暴風、高波、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、高潮に厳重に警戒。また、落雷や竜巻などの激しい突風にも注意。奄美地方では11日にかけて高波に厳重に警戒、九州南部では11日は、高波に警戒。西～東日本太平洋側では高波に注意。
- ② 北海道地方では、千島近海と日本のはるか東にそれぞれ中心をもつ高気圧との間から連なる気圧の谷が11日にかけて停滞するとともに、1項②の流れに沿って850hPaの相当温位336～345Kの下層暖湿気の流入が続く。11日から12日にかけては、トラフが北日本を通過するのに伴い強風軸が南下し、低気圧が北海道地方に接近することから、東北地方を含めて下層暖湿気の流入が強まる。北日本では12日にかけて下層暖湿気の影響により大気の状態が不安定となり、北海道地方では12日にかけて長い期間、雷を伴って強い雨や激しい雨が降り、東北地方でも12日にかけて局地的に雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。北日本では12日にかけて、低い土地の浸水、河川の増水、土砂災害に注意・警戒。落雷、突風、降ひょうに注意。日中の気温上昇やトラフに伴う上空寒気の影響が加わる所では大気の状態が非常に不安定。北日本では12日にかけて、竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項③の上層の高気圧はほとんど停滞し、西日本～東北地方は12日にかけて晴れて真夏日や猛暑日の所がある。熱中症などの健康管理に注意。一方、台風と高気圧との間で太平洋側に流れ込む下層暖湿気が12日にかけて増加し、日中の気温上昇や上空寒気の影響が加わり大気の状態が不安定となる。東～西日本では12日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考にする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量（18時からの24時間）：沖縄300、奄美100mm。

② 波浪（明日まで）：沖縄13、奄美9、九州南部6、九州北部5、その他広い範囲で3～4m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「全般気象解説情報（台風第9号）」を17時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。